

目指す学校像	学校・家庭・地域が信頼の絆で結ばれた、ぬくもりのある学校
--------	------------------------------

重点目標	1 タブレットを活用した授業改善と個別最適な学びの推進 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・相談体制といじめ防止対策の充実 3 コミュニティ・スクールとしての成長、進化に向けた理念、方策の共有と行動 4 一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい (Well-Being) 学校をつくる働き方改革の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国と比べ概ね良好な結果である。学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均と比べ、国語、算数ともに高い。 ○日頃の学習の様子から、調べたことを整理してまとめ、プレゼンテーションすることに意欲的に取り組む児童が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「書くこと」及び算数の「数と計算」「変化と関係」等の設問について、結果の二極化傾向が見られる。	・タブレットを活用した授業改善 ・個別最適な学びの推進	①オクリンク、ムーブノート、Teams等を活用した授業改善。 ②全教員がタブレットを活用した公開授業を一人2回以上実施、校内研修での実践発表を一人1回以上実施。 ①スタディ・サブリ等を活用した個別最適な学びと、算数タイム等を活用した計画的な学習相談の実施。 ②もくもく部屋・わいわい部屋の選択等、学び方を選択できる指導法の工夫改善。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、「タブレットを活用した授業を積極的にやっている。」と回答した割合が100%となったか。 ②全教員がタブレットを活用した公開授業を一人2回以上、校内研修での実践発表を一人1回以上実施できたか。 ①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、「全児童との学習相談を年に2回以上実施できた。」と回答した割合が100%となったか。 ②学校自己評価に係る児童アンケートにおいて、「自分に合った学習方法を工夫できた。」に肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	・「タブレットを活用した授業を積極的にやっているか。」の教員アンケートで肯定的な回答は96%であった。 ・全教員がタブレットを活用した公開授業を一人2回以上実施できた。校内研修での実践発表を一人1回以上実施予定。(2月2日、9日に実施予定) ・「全児童との学習相談を年に2回以上実施できたか。」に肯定的な教員の回答は88%であった。 ・「自分に合った学習方法を工夫できていたか。」に肯定的な児童の回答は91%であった。	A	・メンター制度を構築し、エバンジェリストが全教員を分担して支援していく。学期毎にタブレットの活用について教員アンケートをとり、活用状況を早期に把握するとともに、校内研修や、メンター・メンティーのペアを変えるなど工夫していく。 ・個別最適な学びには、一人ひとりの児童の学習状況の評価が欠かせない。教員各自が評価方法の工夫について方策を立て、評価に基づいた個別最適な支援を実施する。必要に応じて保護者に報告し、家庭と連携して学力向上に取り組む。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 実施日令和5年2月21日 メンター制度(ブラザー制度)、エバンジェリスト(ITスペシャリスト)は、より充実させた方がよい。 コロナが落ち着いてきたので、子どもが楽しみに思う教育活動を充実させてほしい。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 ○心と生活のアンケート、なかよし面談、いじめアンケート等を通して、いじめを積極的に認知することができた。 (課題) ○いじめを認知した後、いじめの解消に時間がかかるケースが見られる。 ○いじめ防止、いじめ撲滅に関する取り組みの一層の充実が求められる。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・子どもたちが主体となって取り組むいじめ防止対策の充実	①情報端末を活用して児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できる。 ②教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、教育相談に関する項目の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。 ②学校自己評価に係る教育相談に関する項目の肯定的な回答の割合が児童アンケート90%以上、保護者アンケートにおいて、90%以上となったか。	・教育相談に関する教員アンケート5項目について、全ての項目で肯定的な回答の割合が95%以上となった。 ・教育相談に関するアンケートで肯定的な回答の割合は、児童97%、保護者94%であった。	A	・教育相談の積み重ねを通して、長期的な視点に立った個別最適な支援に効果的に活用していけるようになる。過去の相談記録や資料等の保管方法を工夫することで、後任の担当者や担当が、過去の相談資料を必要に応じて確認し、活用しやすいように工夫していく。	コロナ禍で、子どものストレスが夏に実施された納涼会での子供たちの様子を見ると、子どもたちは満足に生活できていないかと感じる。 いじめと悪ふざけの見極めは難しい。悪質ないじめはよくない。 なかよし面談は子どもたちにとって助かっているだろう。しかし、不登校は減っておらず、不登校には様々な要因が重なっていると思う。
3	(現状) ○50名を超える防犯ボランティアの方々が、毎日、児童の登下校の安全の見守りを行ってくださっている。 ○防犯ボランティアの方々が積極的にあいさつ運動に協力してくださっている。 ○学校運営協議会準備委員会で目指すテーマを「地域や保護者とともに、地域のつながりを大切に、地元を愛せる子どもを育てる」とした。 (課題) ○学校の外で気持ちのよいあいさつのできる児童が約半数程度である。 ○コロナ禍で様々な集会在中止になり、地域や保護者同士の人間関係が希薄化している。 ○価値観が多様化するとともに、SNSなど、子どもを取り巻く新たな課題が山積している。	・目指す児童の姿を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動公開 ・目指す児童を育てるための教育活動の工夫と保護者・地域との連携・協働	①本校HP内に、新たに学校運営協議会及びSNSの情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ②本校HP内で教育活動や児童の姿を公開することにより、本校の取組や児童の成長に対する関心を高める。	①学校自己評価に係るアンケートで、「コミュニティ・スクールの一員として目指す児童の姿を共有できた。」と回答する割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「児童の成長に対する関心が高まった。」と回答する割合が80%以上となったか。	・「コミュニティ・スクールの一員として目指す児童の姿を共有できたか。」に肯定的な回答は教職員が83%、保護者が82%であった。 ・「児童の成長に対する関心が高まった」について保護者の肯定的な回答は86%であった。	A	・PTAや地域のボランティアの方との連携・協働した活動を多く実施し、学校日より等で報告できた。具体的な取組を通して、コミュニティ・スクールの理解をいただくよう、来年度も連携・協働した取組を継続し、積極的に発信していく。	地元を愛せる子になってほしい。保護者には、1年に1回でも2回でもよいので、旗振り当番に出てほしい。児童、PTA、地域と一緒に校庭環境整備を行ったのがよかった。防犯ボランティアとの交流で、3年生がインタビューをしたり、2年生が町たんけん発表会で手紙をくれたりしたことがとてもよかった。ピオトープは、費用対効果とどんな目的で再生するのかの面で考える必要がある。本校のピオトープは条件が悪いので、更地にして、その土地をピオトープ以外に活用していくのがよい。ピオトープの活用は桜環境センターを利用するとよい。これからは、学校運営協議会が主となって学校を守っていく必要がある。
4	(現状) ○業務改善募集でICTを活用した校内研修の実施が評価され、さいたま市内に紹介された。 (課題) ○学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、業務改善に否定的な回答が37%あり、学校関係者評価委員会でも、子どもたちのために改善することが急務であるとの意見で一致した。 ○運営委員会で勤務時間を短縮することが多く、会議時間や検討時間を短縮するための工夫が喫緊の課題となっている。	・教職員が意欲的に教材研究や指導法の工夫改善に取り組む、児童一人ひとりと向き合うことができるための働き方改革の実施	①働き方改革に関する校内研修を年1回以上実施。働き方改革推進委員会を年3回実施。 ②令和5年度の高学年「さいたま市小学校教科担任制」の全面実施に向けて、高学年で一部教科担任制を実施する。 ③会議の提案について、事前に教職員がチャット機能で意見や提案を書き込むことで、会議時間を短縮する。 ④学校行事等の検討について、管理職への相談や起案を効果的に進めることにより、検討時間を短縮する。	①働き方改革に関する校内研修を年1回以上、働き方改革推進委員会を年3回実施できたか。 ②高学年での一部教科担任制を実施できたか。 ③学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、「在校時間短縮に努めている」と回答する割合が86%以上となったか。 ④学校行事等の検討について、管理職への相談や起案を事前に行うことができたか。	・働き方改革に関する校内研修を1回、臨時運営委員会を1回、働き方改革推進委員会を2回実施した。働き方改革推進委員会は3月に1回実施予定。 ・高学年での一部教科担任制は実施できた。 ・教員アンケート「在校時間短縮に努めている」に肯定的な回答は78%であった。業務改善について、工夫をしているが成果は不十分である。 ・学校行事等の検討について、管理職への相談や起案を事前に行うことで会議時間の短縮につながった。	B	・教職員は在校時間の短縮に努力している。業務の効率化も進んでいるので、引き続き、業務の見直しを進めていく。 ・在校時間増加の原因の一つとしていじめ対応がある。いじめを早期解決するためには、積極的にいじめを認知し、事実確認等の初期対応を迅速丁寧に行うことが重要である。引き続き、報告・連絡・相談、組織的な対応を徹底していく。	教職員の働き方改革・業務効率改革は、校長先生の力量に起因することが多い。 先生方の健康管理が心配である。先生方が忙しい。やるべきことがたくさんあるのだろうが、そこまでまわっていないのでは。学校というより市全体としての問題。更に改善して、先生方が子どもと向き合えるゆとりを作してほしい。

目指す学校像	学校・家庭・地域が信頼の絆で結ばれた、ぬくもりのある学校
--------	------------------------------

重点目標	1 個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びの推進による学力向上 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・相談体制と学校行事等の充実 3 学校・家庭・地域の組織的・継続的な連携・協働体制による地域とともにある学校づくり 4 タブレットを効果的に活用した授業改善に向けた教職員研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
 方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標				年度評価			実施日令和6年2月20日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに平均を下回る児童の割合が多い。学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、市平均と比べ、国語、算数ともに高い。 ○読書マラソンの取組に積極的に取り組む児童が多い。(R4 読書冊数で年間目標を達成する児童が全校児童の38.5%) 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査の結果分析から、平均を下回る児童の知識・技能の定着と、平均レベルの児童の思考・判断・表現力のさらなる向上が課題である。	・個別最適な学びの推進 ・協働的な学びと探究的な学びの推進	①児童一人ひとりが学習のめあてや学び方を明確にもち、学習の振り返りを通して、できた喜びを実感できる授業を展開する。 ②児童一人ひとりの学習状況を随時評価し、指導に生かす。(形成的評価) ③算数タイム等を活用し、計画的な学習相談を実施する。	①「学びの指標」の主体的な学びの項目で肯定的評価が8割以上になったか。 ②国語、算数、理科、社会の学期末テストの平均点が8割以上になったか。 ③各学級で全児童との学習相談を年に2回以上実施できたか。					
2	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 ○ペア学級による異年齢活動でのなかよし遊びや、児童会を中心としたあいさつ運動等を行っている。 〈課題〉 ○いじめを認知した後、いじめの解消に時間がかかるケースが見られる。 ○いじめ防止、いじめ撲滅に関する取り組みの一層の充実が求められる。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談等の充実 ・児童が主体となって取り組む学校行事等の充実	①年度当初に、各担任が引継資料や相談資料等を確認する。 ②情報端末を活用して児童アンケートや面談等の記録を蓄積する。必要に応じて保護者と連携し、個別の指導計画を作成する等、合理的配慮を行っていく。	①年度当初に、各担任が引継資料や相談資料等を確認したか。 ②学校自己評価に係る教育相談に関連する項目の肯定的な回答の割合が児童アンケート95%以上、保護者アンケート90%以上、教員アンケート95%以上となったか。					
3	〈現状〉 ○50名を超える防犯ボランティアの方々が、毎日、児童の登下校の安全の見守り活動やあいさつ運動に積極的に協力してくださっている。 ○学習ボランティアやPTA役員を中心とした保護者に様々な教育活動や環境整備へのご協力をいただいている。 ○学校運営協議会準備委員会の場で、目指すテーマを「地域や保護者とともに、地域のつながりを大切に、地元を愛する子どもを育てる」とし、昨年度はPTAや地域のボランティアの方との連携・協働した活動を多く実施し、学校だより等で報告できた。 〈課題〉 ○PTA役員以外の保護者にもコミュニティ・スクールの一員としての意識を高めていただくよう連携・協働の機会を創出していくことが課題である。	・ユネスコスクールとしての特色を生かした、地域との連携・協働による教育活動の展開 ・学校運営協議会とSSNが一体的に取り組む地域学校協働活動の推進	①各学年の生活科や総合的な学習の時間等の学習においてゲスト・ティーチャーや学習ボランティアと連携・協働した教育活動を行う。 ②本校HP内で教育活動や児童の姿を公開することにより、本校の取組や児童の成長に対する関心を高める。	①生活科や総合的な学習の時間等の学習においてゲスト・ティーチャーや学習ボランティアと連携・協働した教育活動を各学年1回以上実施できたか。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「児童の成長に対する関心が高まった。」と回答する割合が80%以上となったか。					
4	〈現状〉 ○2年間の研修・実践により、オクリンク、ムーブノート、Teams等を活用した授業改善ができるようになった。 ○令和3年度、4年度ともに、年度末に行った一人一人の実践発表が充実しており、お互いに学び合うよさを実感した。 〈課題〉 ○タブレットの活用方法は幅広く、より効果的な活用方法について研修・実践が必要である。	・エバンジェリストを中心としたメンター制度による、学び合い・高め合う教職員研修の実施	①エバンジェリストを中心としたメンター制度で学び合う校内研修を年4回以上実施する。 ②全教員が個別最適な学びや協働的な学びに視点を当てた公開授業を一人2回以上実施する。 ③全教員が実践発表を前期1回、後期1回実施する。 ④学び合いの活性化のため、メンター・メンティーのメンバーを前期、後期で変更する。	①エバンジェリストを中心としたメンター制度で学び合う校内研修を年4回以上実施できたか。 ②全教員が個別最適な学びや協働的な学びに視点を当てた公開授業を一人2回以上実施できたか。 ③全教員が実践発表を前期1回、後期1回実施できたか。 ④教職員アンケートで校内研修への肯定的評価85%以上。(R4年度83%)					